

# 渡りをするチョウ 「アサギマダラ」

文化財 たんぽう 72

石巻市文化財保護委員 櫻谷鎮雄

アサギマダラは、半透明の青色の紋を持つ大型のチョウです。マダラチョウの仲間、東南アジア等熱帯地方には種類が多いのですが、日本本土には、アサギマダラ一種だけが棲息しています。飛び方はフワリフワリと、とてもゆっくりしています。これは幼虫が葉を食べるキジヨラン等のガガイモ科の植物と、成虫が吸蜜するヒヨドリバナやフジバカマの花から、アルカイドという毒素を取り込んで、敵に襲われる心配が少ないからだと考えられています。



ポイントがあり、そこでマーキングをします。9月になると南下を始めるのですが、途中の愛知県や和歌山県でもマーキングされ、南西諸島や台湾まで南下することが確かめられました。2011年には、和歌山県でマーキングされたアサギマダラが、83日後に2500km離れた香港で再捕獲され、これが最も長い移動の記録とされています。宮城県では、蔵王山の澄川スキー場に、8月中旬に、たくさんのアサギマダラが集まることが知られ、有名なマーキング地点になっています。ここでマーキングされたチョウは、知多半島や和歌山県で再捕獲された例もありますが、2000年には、鹿児島県の喜界島まで、1480kmを移動した記録が3例もありました。



全国の中学生を対象とした「平成24年度防火防災に関する作文コンクール」で、湊中学校3年の横山巧さんの「ギリギリの状況のなかで」が最優秀賞に輝きました。横山さんは「まさか最優秀をもらえるとは思っていませんでした。助けてくれた団員の方のように、みんなのために力を発揮できる人になりたいです」と喜びを語っていました。

## スポットライト⑫

### 「ギリギリの状況のなかで」

防火防災作文で最優秀賞

湊中3年生 横山 巧さん

横山さんは地震発生後、川口町にある祖父の自宅の2階に家族や親戚4人と避難しました。大津波が2階の窓際まで押し寄せ、一時は死を覚悟する状況まで追い込まれましたが、九死に一生を得ました。「外からは、流された住民の助けを

## みんなのた場

求める声が聞こえたが、浸水したままはどうすることもできず、恐怖と悔しさでいっぱいだった」と振り返っていました。作文は夏休みの宿題として取り組んだもので、「自分の体験をここで残さなければ、きっと忘れ去られてしまう」と考え、つらい記憶に耐えながら書き



進めたそうです。文中では、地震発生から3日目の早朝に、津波に巻き込まれながらも横山さんや近隣住民を救った地元消防団員の勇敢な姿に感動した経験に触れ、「将来また、大きな災害があるかもしれない。その時は消防団の方々のように自分のことだけでなく、周囲の人、地域の人達を助けられるようにしたい。それができれば、みんな安全に暮らせるはずだ」と決意を込めました。

## キラッとパチリ

### 仲間の声援胸に力走

下水道建設課に派遣の小山さん



▲兵庫県芦屋市からの派遣職員、小山陽光さんが昨年11月の神戸マラソンに出場した時の1枚。石巻の仲間のために走り抜き、自己ベストを更新しました

## まちの話題

### 石巻地区

## 魚市場、初売り式で活気づく

1月5日(土)  
石巻魚市場



魚介類の供給拠点となる石巻魚市場で、初売り式が行われました。同市場の社長等のあいさつに続き、生産者代表が手締めを行い、今年1年の無事故と地元水産界の発展を祈りました。

初売りでは、網地島周辺で漁獲したカレイや地元産のナマコ、ホタテ等を買受人が見定め、値段を付けていきました。市場には、福を呼び込むような威勢の良い競り人の声が響き、活気に包まれました。

## 石巻なごみ伝心板

### 第二回「前進蛇」

節分を迎え、本格的な巳年の始まりですね。

漢字を擬人化し、メッセージを伝えるというのが私の画風なのですが、今年の干支のヘビをどう扱えば良いのか大変悩みました。

そして思考錯誤の末、生まれたのがこの「進」という絵です。『蛇無足而行』という故事成語をご存知でしょうか？これには足を持たないヘビでも前進して行く！という頼もしい意味が込められています。

人それぞれ、一步の歩幅に差はあっても、進んだその一步先には必ず新しい展開が待っていると私は信じます。

南 久美子

(遊墨漫画家 京都府出身・在住)



進もう、石巻、  
足がすくなくとも、  
一歩だけでも  
踏み出せば  
景色が  
ちがう  
見えてくる。